

ウスイロヒョウモンモドキの概要

1. 種名（学名）

タテハチョウ科 ウスイロヒョウモンモドキ
(*Melitaea protomedia*)

2. 環境省レッドリストランク

絶滅危惧 I A 類 (CR) 2020

3. 種の特徴

成虫は小型（開張35～45 mm）。翅表は橙色で、黒褐色の複数の不規則な条線が走り、全体的にレンガ状の斑紋となる。前翅裏面はやや淡い橙色で、外縁および亜外縁に淡黄色の斑紋列がある。卵の概形はほぼ球状に近く、やや弱い多数の隆起条が上下に走る。色彩は淡黄色。径0.60mm、高さ0.70mm程度。幼虫の頭部は黒褐色、角状突起はない。胴部は太短い円筒形、背線列の棘状突起は各節に2～11本並び、この突起は著しく太く短い。胴部は黒褐色、細毛の基部小隆起は白色で小点状に見える。突起は地色よりやや淡く、その先端は白色。気門は黒色、その周辺は白く縁取られる。終齢幼虫は体長22～23mm程度。蛹は紡錘形で、白い地色に目立つ黒点列が胴部全体に並ぶ。垂蛹。体長13～15 mm。

採草地や農地周辺、放牧地などの比較的規模の大きな半自然のススキ草原に生息する。草刈りまたは放牧による人為的な維持が必要である。成虫は年1回6～7月に発生する。幼虫の食餌植物はオミナエシ科のオミナエシやカノコソウ。



4. 分布域

本州（兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県）。現在、生息が確認されているのは岡山県と兵庫県のみ。

5. 存続を脅かす要因

草地環境の変容、開発、シカの増加による食草や吸密植物への食害、乱獲

6. その他

- ・大山隠岐国立公園の特別保護地区（大山蒜山地域、三瓶山地域）および氷ノ山後山那岐山国定公園では捕獲・採集等が禁止されている。
- ・鳥取県希少種保護条例で特定希少野生動植物に指定され、捕獲等が禁止されている。
- ・岡山県の生息地は県の天然記念物に指定されている。
- ・岡山県、兵庫県、鳥取県では、地域の保全団体が精力的な保全活動を継続している。
- ・兵庫ウスイロヒョウモンモドキを守る会、日本チョウ類保全協会や関係する個人により累代飼育が実施されてきた。
- ・環境省と昆虫飼育施設（箕面公園昆虫館、伊丹市昆虫館）との連携により、上記各団体の協力のもと、平成30年度より飼育下繁殖に取り組んでいる。